

—編集後記—

ここに 129 号をお届けします。みなさまのお手元に届くのは春分のころかと思いますが、この編集後記は梅の花が咲き始めた立春のころに書かれました。近くの農場では、黒ボク土に小さな緑色の芽を出しているコムギが、澄み切った朝の空気の中で光をいっぱい浴びています。大学関係者にとっては、この時季が1年で最も忙しく、学位論文の審査や入学試験の業務などで予定が詰まっており、春が待ち遠しい心持になるのは、私だけではないはずです。

縁あって本誌の編集委員を2年間担当しました。実際のところ、査読を担当した論文はわずかでして、編集委員としての責務をあまり果たせなかったのですが、当時は微力ながらも貢献できればという思いで引き受けました。それまでは本学会の会員ではなかったのですが、編集委員の拝命を契機に入会することになりました。私は土壌化学を専門としていますので、「土壌の物理性」に掲載される論文のうち、内容を理解できるものはそれほど多くはないのですが、毎号を楽しみにして待っています。

会誌のなかでも、私は「土粒子」のファンです。私と同年代の会員が、研究の思い出や、学位取得までの紆余曲折を、生き生きと書き綴っているのが、毎回興味深く読んでいます。特に、海外の大学でのポスドクや学位取得のための留学に関する記事は、自分の青春時代を回想しつつ、懐かしさを感じながら読みます。私の土壌化学分野と比較して、日本の土壌物理学分野では、以前から海外の大学で学位を取得、ならびにポスドクとして研鑽を積んでいる研究者が多いように感じます。本学会員における若手研究者の国際志向が強いのは、おそらく諸先輩方の影響を受けているからであると推察します。本会誌の「土粒子」のような、若手研究員の経験を綴った記事が読める学会誌は、それほど多くはなく、これから研究者を目指す学生会員にとって貴重な情報を提供する場としての役割を果たしているのではないのでしょうか。多くの若い土粒子が集まって団粒となって、今後の土壌学分野の発展につながることを期待しています。

橋本洋平（編集委員）

土壌物理学会

事務局構成	会 長	溝口 勝	(東京大学)
	副 会 長	吉川 省子	((独) 農業環境技術研究所)
	庶務幹事	吉田 修一郎	(東京大学)
		西村 拓	(東京大学)
	会計幹事	西田 和弘	(東京大学)
編集幹事	渡辺 晋生	(三重大学)	
	会計監査	吉迫 宏	((独) 農業・食品産業技術総合研究機構)
編集委員会	委 員 長	亀山 幸司	((独) 農業・食品産業技術総合研究機構)
		取出 伸夫	(三重大学)
	委 員	江口 定夫	((独) 農業環境技術研究所)
		小杉 賢一朗	(京都大学)
	齊藤 忠臣	(鳥取大学)	
	千葉 克己	(宮城大学)	
	釣田 竜也	((独) 森林総合研究所)	
	中川 啓	(長崎大学)	
	中野 恵子	((独) 農業・食品産業技術総合研究機構)	
	橋本 洋平	(東京農工大学)	
宮本 輝仁	((独) 農業・食品産業技術総合研究機構)		